

ナシ「豊水」の短果枝せん定による秀品率向上

「豊水」において、長果枝せん定と短果枝せん定を実施し、果実品質の比較を行ったところ、短果枝せん定の方が果実肥大、糖度とも優れており、果形も良く秀品率が高くなる。また、みつ症多発年では、短果枝せん定の方がみつ症の発生がやや少なくなる。

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹研究室 (担当者: 藤丸 治)

研究のねらい

熊本県のナシで最も栽培面積が多い「豊水」は、比較的短果枝が維持しやすく、栽培しやすい品種であるが、近年、現地では「幸水」で実施している長果枝利用せん定を実施している生産者が増えている。そのため、長果枝利用せん定と短果枝利用せん定とを実施し、果形の良否を中心に果実品質の比較を行う。

研究の成果

1. 短果枝せん定の方が、1果重、果形、糖度とも優れる(表1)。
2. 果形を「良い: 5 ~ 悪い: 1」の5段階で評価し、果形4以上の秀品率を比較すると、短果枝せん定区では47%だったのに対して、長果枝せん定区では15%しかなく秀品率が低い(図1)。
3. みつ症多発年の2003年では、短果枝せん定より長果枝せん定の方がみつ症の発生がやや多い(図2)。
4. 以上のことから、短果枝せん定の方が、果実肥大、糖度、果形とも優れており、長果枝せん定では変形果の発生が多く(写真1)、秀品率が低い。そのため、変形果が問題になる「豊水」では、短果枝を中心に利用するようなせん定を実施することで、秀品率向上が図られる。

普及上の留意点

1. 樹勢が強く、短果枝が伸び出して花芽が不足する場合は、長果枝を交えて花芽を確保し、適正着果数を確保する。
2. 古くなった側枝が多く、更新枝が少ない場合は、やむを得ず長果枝を棚付けして使用するが、あまり多くの長果枝を用いないように注意する。
3. 1、2のように長果枝を使用する場合は、必ず予備枝から伸長した充実した長果枝を使用する。

表1 「豊水」のせん定法の違いによる果実品質への影響(2003~2004年)

区	果重 (g)	果形 ^{x)}	地色 ^{y)}	果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	pH	ミツ指数 ^{z)}
短果枝	604	3.3	2.6	5.2	13.3	4.84	0.24
長果枝	480	2.5	2.6	5.0	12.5	4.88	0.52

x)果形は1:悪い~5:良いの5段階評価

y)ていあ部の地色用カラーチャートの値

z)佐久間ら(1995)による値(0:無~3:甚の4段階評価)

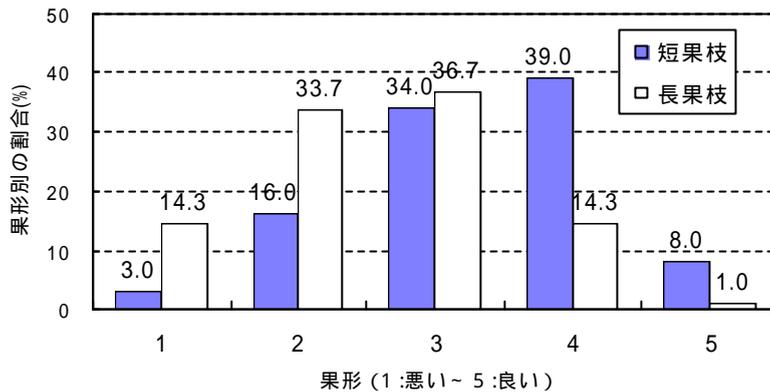


図1 「豊水」のせん定法の違いによる果形への影響 (2003~2004)

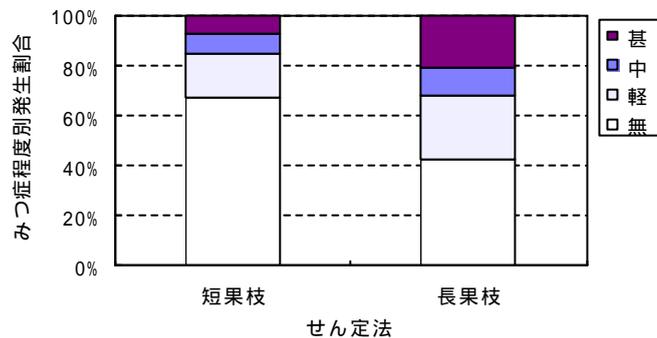


図2 「豊水」におけるせん定法別のみつ症発生程度 (2003)

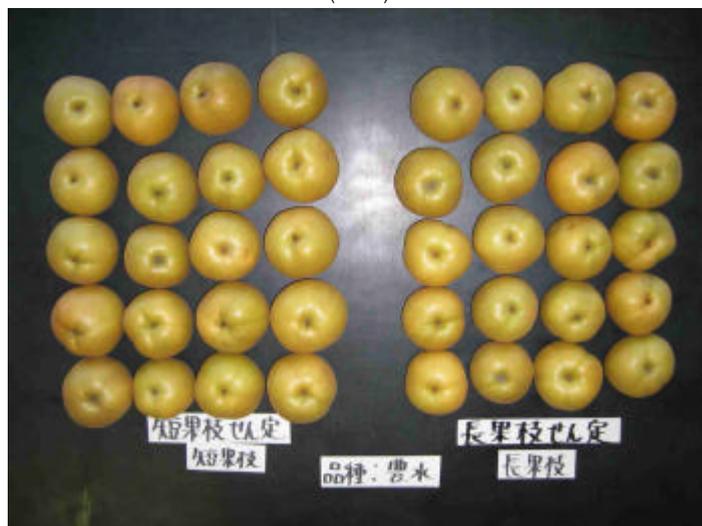


写真 「豊水」の短果枝せん定と長果枝せん定の果形